

浜木綿

は ま ゆ う



R元.

11月号



読書のすすめ

暑かった時期がいつの間にか過ぎ、とても過ごしやすくなりました。

「即位礼正殿の儀」が行われた10月22日(火)には、富士山や北アルプスなどで初冠雪の発表もあるなど、秋本番を迎え、「読書の秋」にふさわしい季節になりました。今年も読書の時間を増やし、多くの本と出会って欲しいと思います。

本校では、毎週木曜日の朝学の時間に、吉見在住の森永美智子さんに来ていただいて、子供たちに読み聞かせをしていただいています。昔話や季節に応じた絵本、その時のニュースに関連した絵本など、毎週2~3冊読んでいただいています。子供たちも毎回の読み聞かせを楽しみにしていて、読み聞かせの間は、本のページや森永さんの方を見て、熱心に聞き入っています。本の世界に入り込み、真剣に、楽しそうに聞いている様子は、とても微笑ましく思います。



読書は、多くの知識を得たり、登場人物の気持ちを想像したり、時間や空間を超えていろいろな世界を体験したりできます。その過程で、語彙力、読解力、思考力、表現力が身に付き、学力の向上にもつながることが知られているため、子供時代の読書が大切であると言われています。



秋の夜長に、テレビやスマホを消し、家族で本の世界に浸ってみてはいかがでしょうか。

話は変わりますが、「即位礼正殿の儀」の一連のニュースを見ていて、上皇后陛下についてあることを思い出したので調べてみると、上皇后陛下は、今年2月に「国際児童図書館名誉会員」になられており、就任理由の一つに「第26回国際児童図書評議会 (IBBY) ニューデリー大会」(1998年)での基調講演があることがわかりました。その講演の中で、ご自身の子ども時代の読書について話されていたので、その一部を紹介します。

今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょうか。

何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る、青年期の読書のための基礎を作ってくれました。

それはある時には私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。
(宮内庁 <http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/01/ibby/koen-h10sk-newdelhi.html> より引用)

10/4 人権教育参観日・講演会

10月4日に、人権教育の授業と講演会を行いました。今年は、「認知症キッズ・サポーター養成講座」を健康推進課の方に行っていただきました。認知症についての説明や寸劇などを通して、わかりやすく伝えていただいたので、子供たちも「認知症の方に出会ったら、周りの人に知らせる」「学校まで連れて行って先生に知らせる」などの意見を言うてくれました。お忙しい中ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



遊具の修繕・ペンキ塗り

夏の点検で、サッカーゴール・鉄棒・複合遊具に危険箇所が見つかり、鉄棒の一部と複合遊具が使えなくなっていました。市に修繕を依頼していたのですが、「子供たちが遊べないのかわいそう」と、地域の方とPTAが協力して直してくださいました。9月末からのべ4日かけて、溶接やペンキ塗り等をしていただき、見違えるようにきれいに、安全になりました。修繕が終わると、子供たちはとても喜び、毎日元気よく遊んでいます。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

